

# 「災害に適切に対応する能力の基礎を培うために」

平成 26 年度 高知県実践的防災教育推進事業 拠点校 南国市立稲生小学校

## I 学校における背景、問題意識

### 1 稲生地区及び本校を取り巻く現状

南国市稲生地区は、主要産業である石灰工業の衰退により、人口減少が続き、現在は約 1,700 人、児童数もピーク時の 20% 程度の 76 名である。高齢化率は市内平野部では 36% と高く、少子化・高齢化傾向が進行している。

ここ稲生地区は、ひらがなの文化を広めたとされる「土佐日記」の作者である紀貫之が、土佐国司として南国市比江に赴任してきた時は、海岸線にあったと推測され、大規模な地震の際には地盤沈下が発生すると考えられる。また、現在の稲生地区は、山に囲まれた盆地形状の地にあり、平成 24 年に発表された「最大クラスの地震による長期浸水予測」によると、約 2 m の長期浸水区域になることが十分予想される。

#### 【本校の立地条件】

- ・太平洋沿岸部からの距離：約 2 km
- ・標高（海拔）：2.1m
- ・想定される津波浸水深：3～5 m
- ・30 cm の津波到達推定時間：約 90 分

### 2 児童・保護者の意識実態

#### 【防災学習についてアンケート結果分析】

- ◆児童・保護者共に南海トラフ地震に対して関心が高い。しかし、避難後、集合する場所や連絡の取り方についての話し合い（家族会議）が十分に行われていない。
- ◆保護者の防災教育への取組についての要望の順位は、①授業での防災学習の充実 ②様々な状況を想定した避難訓練の実施と、依然「防災教育は学校・家庭・地域が連携して取り組む教育」という意識が低い傾向にある。
- ◆「周りの方に何かできることを考えている」と回答した保護者の割合は僅か 4% であり「共助」の意識が低い。

## II 取組のポイント

- ・稲生地区及び本校を取り巻く現状
  - ・防災学習についてアンケート結果分析
  - ・これまでの防災教育のあゆみ
- これらを踏まえて、本年度は、下記の 2 つの視点から研究・実践を行うこととした。

#### 視点A

南海トラフ地震に備え学校での防災教育の充実

#### 視点B

地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実

#### 研究仮説

《本校の防災教育の目標》  
『災害に適切に対応する能力の基礎を培う』  
【知識を備え正しく判断する力】  
【自分の命を守りきる力】  
【地域社会に貢献する心】

◇南海トラフ地震に備え、防災教育の充実につながる。  
◇地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実につながる。

◇『高知県安全教育プログラム』を踏まえた防災学習を意図的・計画的に実践する。  
◇総合的な学習の時間や特別活動(学級活動)の授業改善を図る。  
◇地域や防災関係機関との連携による様々な場面や状況を想定した避難訓練を複数回実施する。  
◇「稲生地区防災教育実践委員会」を設置し、地域の防災意識を高める取組を進める。

本校では、研究主題を『自他の思いを大切にし、伝え合える子どもの育成』として、「道徳教育を基盤とし、互いに認め、高め合う授業づくり」を研究・実践をしている。そこで、取組の重要課題を授業改善とする。

### III 取組の概要

防災学習授業実践① 【総合的な学習の時間 第5学年】

単元名：稲生Otto Mottoプロジェクト

～めざせ！日本一のまち～安心・安全なまち 稲生＜災害に強いまちづくり【防災編】＞

#### 【防災学習で育てたい児童像】

『家庭の防災対策の状況や地元会社の取組を知ることを通して、自分たちにできる努力や協力方法を考え、稲生地域の人たちのために役立つ行動ができる児童をめざす』

家庭における防災対策状況を調査したり、地域の石灰会社に見学に出かけ、そこで働く人たちに取材したりすることで、家族や地域の人たちのために自分たちにもできることがあるという実感を持ち、地域住民の一員として、自分たちにできることを真剣に考え、主体的に地域防災に貢献できる児童。

#### 単元の目標

【学習方法に関すること】◆稲生という地域が、安全で、安心できるまちかどうかについて関心をもち、課題をもって調べることができる。◆課題解決に向けて、「わかったこと」と「わからなかったこと」を整理しながら、調査活動に取り組むことができる。

【自分自身に関すること】稲生という地域の防災に対する備えや工夫、知恵を知り、そこから学んだことを、これからの自分たちの生き方に生かすように考えることができる。

【他者や社会とのかかわりに関すること】自分たちの学びを地域に伝えることで、地域に生きる一員として、地域とかわることができる。

◆地域の施設（商店や工場、その他の産業関連施設等）に出かけ、そこで行われている施設ならではの防災に対する備えについて調べ、よく考えられている工夫や知恵を探す。

まとめる

◆学校・家庭・地域に向けて効果的な情報発信手段を考え、発信する。

振り返る

◆これまでの活動を通して、自分の生活にどう生かしていくかについて考える。

#### ☆本時の目標及び授業展開

【目標】友だちの発表をもとにした話し合い活動を通して、自分の家の防災に対する備えを見直し、備えの必要性を考えることができるようにする。

1. 前時の振り返りをする。
2. 課題をつかむ。

家の備えや家族で決めていることについて、「工夫点（よく考えられているところ）」・「問題点（これは危険だと思うところ）」を考えよう。

3. 個人発表をする。（3名）
4. 班で話し合う。  
（工夫点や問題点について）

5. 全体で意見を交流する。
  - 目に見えるものについて
    - ・耐震補強（家具等の固定化）
    - ・非常用持ち出し品  
（非常用持ち出し袋の中身）
  - 目に見えないことについて
    - ・家族での約束事・心構え・声掛け

6. 学習感想を書く。

#### 単元構成

#### 出会う

- ◆南海地震等の自然災害に関する資料やデータをもとに、稲生地域の安全性（危険性）を知る。
- ◆防災学習アンケートの項目をもとに、防災の備えとして、「できていること」と「できていないこと」の2つの視点で意見交流をする。

#### 調べる

- ◆実際に自宅で行われている防災に対する備えについて、工夫点と問題点の2つの視点で調査し、調べてきたことを紹介し合い、意見交流をする。☆（本時）

【防災学習で育てたい児童像】

『稲生地域の地形の特徴や人々とのつながりを理解し、防災について自ら考え行動できる児童をめざす』  
 稲生で過去に起こった災害（地震・津波等）や災害に対する地域の備えについて、お年寄りや自主防災会の方々から取材し、稲生のどこにいても災害から自分の命を守るための行動がとれるとともに、地域のよさに気付くことができる児童。

単元の目標

【学習方法に関すること】稲生の過去の災害に関心をもち、災害の状況に応じて適切に自分の命を守る方法を進んで調べたり、地域の避難場所・自主防災会の取組などを取材し情報を収集したり避難所案内マップにまとめたりすることができる。  
 【自分自身に関すること】南海トラフ地震から命を守るために、防災の知識を身に付け、日ごろから状況に応じて適切に判断して行動しようとするすることができる。

【他者や社会とのかかわりに関すること】稲生地域の過去の災害や防災に関する取組についてお年寄りや自主防災会の方の話の聞いたり、友だちと話し合ったりする中で、稲生のよさや共助のよさに気付くことができる。

単元構成

出会う

- ◆稲生地域の過去の災害についてグループ別にお年寄りから話を聞き、まとめる。
- ◆お年寄りから聞いた話を発表し合い、稲生で地震が起きた時どうしたらよいか考える。☆（本時）
- ◆命を守るために必要な情報を集める方法について話し合い、今後の学習の課題設定をする。

調べる

- ◆稲生地区に想定される災害を確認し、災害から命を守る方法について書籍やパソコン等で調べる。
- ◆自主防災会の方の話を聞く。

- ◆グループごとに地域の避難場所を調べる計画を立て、避難場所や地域の取組を調べる。

まとめる

- ◆聞いたり調べたりしたことをもとに、避難場所案内マップを作る。
- ◆家庭や通学路での具体的な災害状況を想定して危険を予測し、災害から命を守る方法を話し合う。

発信する

- ◆作成した避難場所案内マップの発表をグループごとに行い、地震から命を守る方法についてまとめる。

☆本時の目標及び授業展開

【目標】稲生地域の過去の災害や防災に関する取組についてお年寄りの方に話を聞いたことをもとに、稲生で地震が起きた時どうすればよいか友だちと話し合う中で、今後の学習の必要性に気付くことができる。

1. 前時の振り返りをする。
2. 課題をつかむ。

今、稲生地域で地震が起きたら、わたしたちは命を守ることができるだろうか。

3. グループ発表をする。（4グループ）
4. グループ発表を聞いて思ったことを発表する。
5. これまでの学習を振り返り、今、稲生地域で地震が起きても、自分は命を守ることができるか話し合う。
6. わたしたちの命を守るために、これからどんな学習が必要か考え、話し合う。
7. 学習感想を書く。  
 ○自分の意見をワークシートへ書き、発表する。

防災学習授業実践③ 【特別活動（学級活動） 第2学年】

題材名：揺れがおさまっても・・・まだ続く危険とは？

学級活動（2）カ 心身ともに健康で安全な生活態度の形成

【防災学習で育てたい児童像】

身近に起こりうる災害に対し、日常生活を安全に保つために自分ができることを考え、危険に備えたり、自ら回避したりして、自他の生命を大切にできる児童。

評価規準

【集団活動や生活への関心・意欲・態度】

地震後の火災からの避難の仕方について関心を持ち、進んで今後の学習や日常生活に生かそうとしている。

【集団の一員としての思考・判断・実践】

地震後に火災が発生した場合の避難の仕方について話し合い、適切な避難行動や防火対策について考え、判断し、実践しようとしている。

【集団活動や生活についての知識・理解】

地震後に火災が発生した場合の被害と、火災からの安全な避難方法について理解している。

事前の指導

【児童の活動】

避難訓練

（11月：地震後の火災想定）

地震後に火災が発生した場合の避難行動をとる。

【指導上の留意点】

発煙筒を焚き、その中を避難するので、煙を吸わないようにする為には、どのように行動したらよいか考えさせる。

本時の目標及び授業展開

【目標】大きな揺れの後の火災からの安全な避難方法について考え、実践しようとする。

1. 揺れの後の危険について考える。
  - ・つなみが来る・建物が崩れる・火事が起こる

地震の後に火事が起こったら、  
どうやって避難すればよいだろう。

2. 火災時の危険について考える。

- ・火、煙、熱。
- ・煙を吸うと少し苦しかった。

3. 通常の火災との違いをおさえる。
  - ・ガラスが散乱し、柵などが倒れている。
  - ・すぐ通れない。（避難経路が使えない）
  - ・建物が壊れて、閉じ込められるかもしれない。
4. 地震発生後の火災からの避難の仕方について話し合う。
  - ・火や煙から遠ざかる。
  - ・足元に注意しながら逃げる。
  - ・安全な避難経路の選択。

\*なぜ「低い姿勢で逃げろ」と言われたのだろうか？

  - ・けむりは上に上がるので低い姿勢で逃げる。
  - ・けむりを吸わないようハンカチや服でふさぐ。
  - ・混乱時の人ごみからの避難と約束『お・は・し・も・ち』（押さない、走らない、しゃべらない、戻らない、散らばらない）。
5. 地震発生後の火災時の避難の仕方をまとめる。

事後の指導

【児童の活動】

家庭で、地震後に火災が発生した場合の避難方法を保護者と共に確認する。

【指導上の留意点】

家庭における火災が発生する可能性がある場所について確認させ、どのように避難すればよいか、保護者とともに考えるようにする。

家庭でも、「お・は・し・も・ち」のルールを守るよう声掛けする。



ミニ避難訓練を授業展開に設定する。



様々な場面や状況を設定した  
避難訓練の実施

地震・津波等の災害に対して、いつ、どのような状況下でも適切に対応し、自分の命を守りきる力を身に付けるために、様々な場面や状況を設定した避難訓練を下記のように実施した。第2回避難訓練からは実践力を高めるために、緊急地震速報の音源を活用し、児童に告知せずに行った。

【第1回避難訓練(4.15)】 ◇授業中

- ◆稲生保育園・南国警察署との連携

【第2回避難訓練(5.28)】 ◇授業中

【第3回避難訓練(6.5)】 ◇授業中

- ◆緊急地震速報伝達訓練に合わせて実施

【第4回避難訓練(7.15)】 ◇休み時間

【第5回避難訓練(8.17)】

- ◆引き渡し・引き取り訓練

(夏季休業中の愛校作業・資源回収日)

【第6回避難訓練(10.22)】 ◇休み時間

- ◆重症患者(5年生児童役)を担架で運搬(5・6年生児童を無作為に選出)
- ◆ヘリコプターによる救助要請(全児童・園児・地域住民でSOSの人文字をつくる)



運動場で  
ヘリサインを  
つくる!

- ◆毛布担架による救助体験(全児童)
- ◆南国警察署・南国市消防署・稲生保育園・自主防災連合会との連携

【第7回避難訓練(11.5)】 ◇授業中

- ◆緊急地震速報伝達訓練に合わせて実施

【第8回避難訓練(11.18)】 ◇掃除中

- ◆南国市消防署との連携
- ◆火災発生(発煙筒を使用し、火災時の避難の困難さを体験させる)
- ◆負傷者あり

【第9回避難訓練(12.22)】 ◇始業前

- ◆教職員にも告知なし
- ◆避難完了児童確認と登校中児童の確認
- ◆通学路を巡回しての児童の安否確認

地域や防災関係機関との連携体制の  
強化・充実を図る実践

【稲生地区防災教育実践委員会の設置】

学校の防災教育の趣旨と取組を理解していただき、地域や家庭、関係機関と連携した取組を進めるために、36名の構成員による実践委員会を本年度より設置した。下記の2つのねらいで年間4回開催し、熱心な協議を通して、強い絆と地域防災力の高まりにつながった。

- ・稲生地域の防災意識を高めるための取組を協議する。
- ・本校の防災教育の取組に対しての分析・検証を行う。

【稲生保育園・稲生小学校・稲生地区自主防災連合会合同避難訓練の実施(6.15)】

地域合同の本避難訓練は、平成25年度より実施しており、本校も下記の日程で参加体制を整えている。本校屋上が本部となる。

7:50 伝達手段の最終確認

8:10 試験電波発信

8:30~9:30 地震・津波避難訓練開始!!

◇避難場所で防災会担当者に報告

◇避難児童を確認し、本部へ報告

◇各避難所にて、防災会担当者の講評

10:00 稲生地区防災教育実践委員会開催

※児童は10:00~10:30に登校後、平常授業



【防災教育講演会の開催①(8.31)】

講演「これからの防災教育・防災学習の在り方」

講師：高知工業高等専門学校

岡田 将治 准教授

【防災教育講演会の開催②(10.28)】

発表「南国市・岩沼市交流事業の学び」

第6学年参加児童(2名)

講演「子どもたちに、自分の命を守りきる力をつけるために今、地域や学校、家庭に求められること」

講師：宮城県岩沼市立玉浦中学校

横橋 健 校長

## IV 成果と今後の取組

南海トラフ地震に備え  
学校での防災教育の充実の視点から

### 【成果】

- 家庭や地域、関係機関との連携による防災学習（総合的な学習の時間・特別活動【学級活動】）を通して・・・
  - ・児童の防災意識が高まった。
  - ・児童の地震や津波、防災についての知識・理解が広がり、深まった。
  - ・児童は、家庭における「日常的な備え」に対しての必要性に気付き、自己決定し、そして行動選択ができるようになりつつある。（行動化に繋がる）
  - ・学習に対しての関心・意欲が高まり、より探究的・協同的な学びの姿がみられる。
- 避難訓練の回数を重ねたことから・・・
  - ・避難の仕方（スムーズな避難行動等）や避難行動に対する児童の意識に変容がみられる。
  - ・聴覚的情報への反応が速くなった。（地域や校内放送、また授業中「揺れたかな？」程度の小さな揺れに対しても反応が速くなり、素早く机の下で身を守る行動をとることができる等）
  - ・地震や津波に対しての危機感や「日常的な備え」の必要感が高まった。
- 保護者の防災意識について・・・
  - ・防災への関心や「日常的な備え」が高まりつつある。
  - ・地震・津波が発生した場合、わが子が自分自身の身を守ることができるかどうかについての意識が高まっている。
- 家庭における防災に関する話合い（家族会議）が少しずつ広がりをみせ始めた。
- 防災学習の実践、校内研修（授業研究）や複数回に及ぶ様々な場面や状況を想定した避難訓練により、教師自身の防災意識が高まった。
- 防災学習の実践を進める際の教材研究や資料づくりを通して、地震や津波等、災害や防災に関する知識が豊富になった。
- 地域や保護者、関係機関等との連携を図

りながら「総合的な学習の時間」を展開することで、「人とのつながり」に広がりができた。

- 防災学習の過程（調べ学習等）で、各家庭の防災対策状況や防災意識を把握することができた。
- 防災学習の実践、校内研修の授業研究により、防災の授業づくりの力量が高まった。（指導案の書き方・授業展開の方法等）
- 複数回に及ぶ様々な場面や状況を想定した避難訓練により、避難イメージが明確になり、避難誘導等、その場での対応の仕方の理解がより確かなものとなった。

### 【今後の取組】

- 防災学習の系統性・関連性の整備
- 防災学習の工夫（情報発信を含む）
- 稲生地区で想定される災害の知識の拡充
- より現実を想定した避難訓練の実施
- 登下校中等の避難訓練の実施
- 「避難後」の訓練の実施
- 学校における「日常的な備え」の工夫
- 地域防災関係者との「つながり」づくり

地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実の視点から

### 【成果】

- 地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実が確実に図れ、稲生地域の防災意識の高まりに繋がっている。
- 地域や防災関係機関との連携体制の強化・充実のための新たな取組企画に対するモチベーションの向上が図れた。
- 稲生地区の「防災文化」の基礎づくりが図れた。

### 【今後の取組】

- 防災関係機関と各自主防災会の連携による避難訓練の実施
- 南国市の他地区との積極的な情報交換
- 「日常的な備え」に対する意識の向上
- マスコミへの取組の情報発信継続
- 避難場所・伝達手段の整備と予算確保
- 合同避難訓練の継続実施
- 防災に関する研修会の積極的実施
- 災害時の率先避難の啓発
- 学校における防災学習の情報発信
- 「実践委員会」の定期的開催継続